

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「凹」は、「凸」の救世主？～

「スラムダンク」や「バカボン」など、国民的人気漫画を生み出してきた井上雄彦さん。

キャラクターの魅力を引き立てる秘密について、このように言っています。

「登場人物すべてに、必ず1つ〇〇を作ること」

答えは漢字2文字です。さて、なんでしょう？・・・

では、どうぞ



井上雅彦さんは、『スラムダンク』の成功の秘訣について、こう答えています。

「登場人物すべてに必ず1つ・・・・・・欠点をつくること」

なんでもできるオールマイティな登場人物は絶対に作らないのだとか。

たしかに、主人公の桜木花道はずば抜けた身体能力はあるけど・・・バスケットの経験がゼロ。

そのライバル、流川 楓はすごいテクニックを持っているが・・・ディフェンスに穴があり、体力（スタミナ）がない。

宮城リョータは、すばしっこくて敏捷性はピカーですが・・・身長が低い。

三井 寿は、天性の素質をもちながらも、一時期バスケット部を離脱。ブランクがあり、体力に問題がある。

キャプテンの赤木剛憲（通称ゴリ）は、ディフェンスに優れ、リーダーシップもあり、情熱も申し分ないんですが・・・いかんせん、周りを考えずに独走するところがある。

こんなふうみんな欠点（弱点）があるのですが、それを支え合い、活かし合うから、いいチームに成長し、面白いドラマ（漫画）になるんです。

かならず、登場人物すべてに必ず1つ欠点をつくる。

これが漫画を面白くするコツなのだとか。

凹んでいる人がいるからこそ・・・凸の出番が生まれるんです。

あなたの欠けている点は・・・誰かに出番をプレゼントしていることになるのです。

「世界一たのしくてためになる『幸せ』の授業」ひすい ことろう（サンマーク文庫）より

この通心（信）でよく紹介している『経営の神様』と称された松下幸之助さんは・・・

「自分を出世させたのは、この3つのことしか考えられない」と言っています。

「1つ目は・・・家が貧しかったこと

2つ目は・・・学校へ行ってなかったこと（行けなかったこと）

3つ目は・・・体が弱かったこと（病気だったこと）」

家が貧しかったからこそ・・・お金持ちになろうとした。

学校に行けなかったから・・・本を読んで、自分で勉強した。

体が弱いから・・・自分が入院しても自分の代わりになってくれる人を育てようと思った。」

すべての欠点を活かすことで、松下幸之助さん率いる松下電器産業（現パナソニック）は日本を代表する企業にまで育ったのです。

